

2024年度(2025年3月期)中間決算説明会質疑応答(要旨)

日時：2024年11月8日(金) 13:00-14:00

【計測/中国事業について】

Q：液体クロマトグラフ質量分析システム(LCMS)における現地企業の動向について

A：現地企業は存在しているが、装置の性能には開きがある。入札条件に国産優遇が付される場合もあり、今後国産優遇に対しては技術流出に考慮しながら、現地生産を進める。

Q：受注の推移が前年同期比でマイナス成長が継続している。3Q以降にプラス成長に戻るのか

A：政府支援策関連案件について入札の進捗が遅れた一方、アカデミアに加え税関にも政府支援策が拡大している。今年中に契約完了することが条件の案件が出てくるなど、着実に政府支援策関連の案件は動いているので、これらの需要を取り込んでいきたいと考えている。

Q：製薬市場回復の見込みについて教えてほしい

A：CROやCDMO市場では、米国が経済安保の観点から開発・製造依頼を控えており、加えてインドや韓国にシフトしていることもあり、回復は難しいと考えている。一方、漢方薬や自国で使用する原薬、医薬品に加えて、バイオ医薬や遺伝子治療薬などの新たなモダリティに対する研究開発が進められており、これらの市場に対する取り組みを進めていきたい。

製薬市場の本格的な回復には時間を要すると考えており、臨床や食品安全などの製薬以外のヘルスケア領域に加え、環境分析、水素、電池関連をはじめとするグリーン領域といった製薬以外の分野にも注力し、中国の業績拡大を図っていきたい

【計測/インド事業について】

Q：インド好調の背景は、中国のCRO向け需要がインドへシフトしたことが一つの要因か

A：そうである

【通期業績予想について】

Q：中国以外の地域について需要動向を教えてほしい

A：日本、米州、インドが伸びたが、欧州の景況感は悪い。
中国を除く受注については、計測が一桁後半成長。主力機種は液体クロマトグラフや質量分析システムも二桁成長するなど進捗をしているものもある。産業のTMPは30%以上成長。連結では二桁成長であり、下期については目標達成できると考えている

【ヘルスケア領域への取り組みについて】

A : 医薬品精製装置事業を展開する米国 Sepragen 社との協業について教えてほしい

Q : Sepragen 社はバイオ医薬品向けの精製用クロマトグラフィーの製造・販売をしており、協業によって同社製品の装置や消耗品販売等を通じて、ワクチンや遺伝子治療薬など高い成長が期待されるバイオ医薬品の製造工程を支援する事業に参入する。これにより、従来の事業領域（研究開発・品質管理）を製造工程まで拡大することができるため、今後はバイオ医薬品向けの取り組みをより進めていきたいと考えている

以上